



「置かれたところで自分なりに咲く」

佐渡市立河崎小学校長 濱田清明

【花屋にて】

私 「ベゴニアが枯れたんですけど・・・。何が悪かったのですかね。」
 店の人 「お客さん、ベゴニアを枯らすという人を初めて聞きましたよ。」
 私 「葉っぱがしおれていたの、高い肥料を買ってたくさんやったのに、枯れてしまったんですよ。」
 店の人 「お客さんは、**風邪を引いて体が弱っている子どもに栄養満点のステーキを食べさせますか？ おかゆを食べさせるでしょ。それと同じですよ。**」
 私 (おっしゃるとおりです。)



学校の玄関を花いっぱい飾りたいと考えていた私は、意気消沈をしてしまいました。おまけに、花屋の後にたまたま立ち寄った本屋で、「植物を育てるのも子育てと同じ！」というタイトルが目に入り、より一層落ち込んだ私でした。私は、植物を育てるのも子育ても失敗??? 花がしおれたと思えば、肥料を多くやれば大丈夫と安易に考えた結果、枯らしてしまい、また、我が子が困っていると勘違いしては、求めているのに手を出し、反発されて・・・。その後も、数々の失敗(?)の連続です。

ところで、江戸時代の学者である細井平洲は、人を育てることについて以下のように述べています。

人を育てるには、菊好きが菊を作るように育ててはいけない。農家が野菜を育てるようにすることが大切である。

菊で大きな花を咲かせるには、枝が多いとその枝を切り、つぼみが多いとそのつぼみを摘んでいき、最後に二つか三つにし、その中から一輪を大きく咲かせます。一方、農家の方が野菜を育てるときは、一株一株を大切に育てます。畑の中には、曲がったものや大小様々なものがありますが、全てを大事にします。野菜を育てるように、子どもたちの個性を認め、育てることが大切です。

最近、家庭や学校でも、子どもたちには「置かれたところで自分なりに咲く」という願いをもって温かく見守っています。もし、雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんな時には無理に咲かなくてもよいと思っています。そんな時は、根を下へ下へと降ろして、りっぱな根を張り、次に咲く花がより輝いてほしいと考えています。**運動・勉強や係活動、友達関係など、その時々を自分らしく精一杯やり、失敗してもいいから、また挑戦してほしい**と思っています。(ちなみに、「青いバラ (Blue Rose)」の花言葉は、「不可能」でした。青い色の花はいくつかあるのですが、バラだけは長い間、青い色は存在しなかったのです。そのため、花言葉は「不可能」となったのです。ところが、2002年、日本の研究者たちが遺伝子の組み替えによって、世界初の青いバラを誕生させました。そして、花言葉は「**夢かなう**」に変わりました。この話のように、子どもたちには、**置かれた場所・役目で、「自分の力は伸ばせると信じ、失敗してもやり抜く (河崎小学校2つめの約束)**」を行動に移し、様々なことを体験してほしいと願っています。)

私自身も、自分らしい花を咲かせていく姿を、子どもたちに見せていけるように努力します。このたよりを書いていたら、自分がいつも歌っている歌詞を思い出しました。

♪そうさ僕らも 世界に一つだけの花 一人一人違う種を持つ
 その花を咲かせることだけに 一生懸命になれればいい。
 小さな花や大きな花 一つとして同じものはないから
 NO. 1にならなくてもいい もっともっと特別なOnly one♪ (SMAP「世界に一つだけの花」)

